

省節減というのが今年に限ったことではなく、省エネルギー率を六十年代十二・一％、六十五年度十四・八％、七十年代十七・一％にとだんだん強化しなければ、国全体のエネルギー需給のバランスは保てないという見通しを立てています。

昭和五十四年度の石油事情を見てみますと、原油の輸入計画では上期で一億三千二百二十四万バレル、これに対し輸入が確定と思われておりますのが一億三千五百万バレルとなっております。昨年実績比三・九％増ですが、計画より百七十四万バレル下回っています。

問題は下期の輸入がどうなるかということです。計画では一億四千八百四十七万バレルを輸入するとされていますが、今の段階ではまだはっきりしていませんし、業界筋では厳しい見方をしており、楽観できません。

次に県内の需給動向、県の対応ですが、昭和五十三年度、百五十三万バレルの石油製品が消費されています。

内訳はガソリン五十一万三千バレル、灯油二十四万七千バレル、軽油二十六万二千バレル、A重油十六万七千バレル、B重油六万九千バレル、C重油二十三万二千バレルとなっています。

今年の一四半期実績を見ると、昨年同期比で一〇％増、全国が三・三％増です。で全国平均を大きく上回っています。

さらに七月を見てみますと、本県は対前年同期比五・七％増、全国は一・三％減となっています。

そういう状況の中で、六月から八月にかけていろいろな苦情、陳情等がありました。

まず豪雨災害等による排水ポンプの燃料確保、八代地方を中心とするイ草乾燥用燃料の不足、トラック輸送の軽油不足あるいは個々の家庭では灯油不足などです。

県では七月十八日に副知事を本部長とする石油対策本部を設置しまして、苦情の処理、今後の対策等について検討をしているところです。

特にこれからの秋冬の需要期に備えまして、県内の需要調査、農業関係につきましては、個々の農家の実態調査を行っています。

また市町村に対しては、住民の相談窓口の設置、そして住民に対するその周知徹底をお願いしています。

こういった市町村との連携、石油商業協同組合との連絡を密にしながら、秋冬期に混乱が起きぬよう対応していくつもりです。

置き場所によつて消費電力が三割ちがう



よく売れるということですね。けれど収量も上がりませんし、輸入物もはいつてきて、早出しのメリットがなくなりつつあるわけです。

時期をずらして作ると、量的にもかなりよくなりますし、そういう方向になるだろうと思います。

友住——私は、きゅうり一匁つくるのに牛乳びん三本の石油を使うと聞いたことがあります。

私たちが消費者が、今食べるのをちがうとがまんすれば、そこに石油を使わなくてすむのなら、お互い話し合わなければいけませんね。

宮島——だから嗜好的な物の生産には石油を使わないというような話し合いでもやらないと、しかし石油を確保した者が生産を行うと、また競争状態になりますね。

有田——日本人の体質からいって、法律で規制するというのはどうなんでしょうね。

宮島——アメリカでは三人以上乗ってる車は、優先車線を走れるんですよ。だから通勤の時も三人相乗りした車はスムーズに走っています。

有田——やはり省エネでは、マイカーが一番問題でしょうね。

しかし、これもやかましくやれば、支障をきたす面も多々あるわけです。それで各人が少しでも自覚すれば、相当量のガソリンが節約できますよ。

一人一人が自覚して

有田——ただ本部長さんから石油エネルギー情勢の説明、つまり石油について有田不安定だというお話しがありました。が、これは全くその通りだと思います。



そこで私たちとしても、各自の職場、あるいは家庭の場でどう対処するかということですが、省エネルギーの問題は、家庭の場が一番広いと思います。

友住——私が近所の奥さんたちといろいろお話をした感じは、やはり燃料というのが一番厳しいなということです。

四十七、八年度に風呂を灯油に変えられている家庭が多いんですよ。しかし灯油の値上りで苦しいから、もう五年すぎたから新品を買った方がいいだろうか、このまま使えなくなるまで使おうか、太陽温水器等に切り替えた方がよいかはなかと考えます。

四十七、八年度は、灯油も値上がりし

宮島——日本ほど公共交通機関が発達している国は他にありません。

友住——公共交通機関を利用すると、マイカーで行くのとでは、石油消費は大幅に違うわけですから、このようなことも人々に周知させるのも大切でしょうね。

宮島——現代は、健康志向というのが非常に強いわけですから、自転車を利用するのめいとは思いますが、自転車道がないものですからね。今の交通状態では自転車はちょっと走れませんよ。

友住——省エネルギー率の五割というのは、ちょっと甘いという気がします。

有田——政府の発表は、石油需給関係は悪くないみたい発表をするでしょう。

中上——八代地方の場合はイ草が一番石油を使っているようです。これは太陽熱を利用すれば三〇％位は節約できると思います。

太陽エネルギーというのは、まだ試験の段階ですけれども、コストもそう高くはありません。ただ施設をする場所の問題があります。床面積に対して受光面積がかなり必要です。

それから収穫時期のことも考えなければなりません。

大切に使う身近なエネルギー



すすぐ前に一度脱水を

これなんかも計画的に長期にわたって節約運動をやらなくてはと思います。農業にしても、一時期に比べたら、今はもう何も切迫感はないでしょう。山下——農業関係については、国、県でも施設園芸のあり方について検討しています。

作型転換等も考えているようです。

宮島——私は、家庭用としてはソーラーシステム（太陽熱利用）というのは有望だと思えますね。補助燃料だけでいいわけですから、ものすごく節約になると思っています。

有田——私は天日風呂を十四、五年前から使っています。夏は太陽熱だけで全然燃料はいりません。

友住——南国の熊本ですから太陽熱をもっと利用できたらと思いますね。田舎の方は多いようですが、熊本市内は少ない



例えば、トラックでまわっていたのをバイクにかえたりしましたね。それとやはり作型を変えるということをおみなが考え直す時期だと思っています。プリンスでも、今までは早出しをやっていたわけです。価格も高いし、